



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月4日

上場会社名 株式会社 淀川製鋼所

上場取引所 東

コード番号 5451 URL <https://www.yodoko.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 二田 哲

問合せ先責任者 (役職名) IR室長 (氏名) 出口 尊之

TEL 06-6245-1113

四半期報告書提出予定日 2022年11月10日

配当支払開始予定日

2022年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	118,525	26.3	8,235	45.5	10,960	53.6	5,858	42.5
2022年3月期第2四半期	93,873	39.1	5,658	85.3	7,136	69.5	4,110	41.1

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 9,993百万円 (50.7%) 2022年3月期第2四半期 6,633百万円 (22.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	203.08	202.42
2022年3月期第2四半期	142.74	142.14

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	251,857	198,141	69.4
2022年3月期	244,671	191,937	69.6

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 174,772百万円 2022年3月期 170,296百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		35.00		67.00	102.00
2023年3月期		40.00			
2023年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2023年3月期の期末配当金につきましては未定であります。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期									

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2023年3月期の通期業績予想につきましては、当社グループの業績を合理的に算定することが困難であり記載しておりません。詳細につきましては3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	34,837,230 株	2022年3月期	34,837,230 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	5,976,132 株	2022年3月期	6,008,176 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	28,846,640 株	2022年3月期2Q	28,798,281 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期貸借対照表に関する注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、ウィズコロナの進展による経済活動正常化の進捗などから、景気は緩やかながら持ち直しの動きがみられましたが、ウクライナ情勢の影響や円安による輸入コスト上昇などによる資源・エネルギー価格の高騰などの要因から、景気の下押し圧力は高まっております。

世界経済におきましては、米国では物価上昇や金融引締策の影響などから先行き景気減速への懸念が高まっております。中国ではいわゆる「ゼロコロナ」政策や不動産不況などの影響による需要低迷などから停滞がみられており、加えて欧州でのエネルギー価格高騰などによるインフレの加速や政策金利の上昇などから、減速感を強めております。

鉄鋼業においては、日本国内では、非住宅着工や機械生産などが堅調に推移した一方で、半導体の供給制約の影響などによる自動車生産の減少などから、受注・生産ともに減少に転じております。

海外鉄鋼市場では、世界各地域の景気減速に伴い、市況は弱含んでおります。

このような環境のなか、当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,185億25百万円（前年同期比246億52百万円増）、営業利益82億35百万円（同25億76百万円増）、経常利益109億60百万円（同38億23百万円増）、親会社株主に帰属する四半期純利益58億58百万円（同17億47百万円増）となりました。

日本国内では主に鋼板商品の販売価格改善に伴う売上増などから増収増益となりました。

海外では、主に台湾の子会社である盛餘股份有限公司（以下、SYSCO社という。）の売上増などから増収となりましたが、中国の子会社である淀川盛餘(合肥)高科技鋼板有限公司（以下、YSS社という。）が中国市況の停滞の影響を受けたことなどから減益となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

①鋼板関連事業

売上高は1,140億42百万円、営業利益は85億25百万円となり、増収・増益となりました。

<鋼板業務>

日本においては、建築需要の停滞などからひも付き（特定需要家向け）の販売量は減少しましたが、店売り（一般流通向け）の販売増に加え、各品種の販売価格改善などから増収・増益となりました。

海外では、台湾のSYSCO社は、合計販売数量は減少しましたが輸出向けカラー鋼板の販売量が増加し、販売価格も改善したことに加え為替の影響もあったことから増収・増益となりました。中国のYSS社は、ゼロコロナ政策に伴う上海など大都市での都市封鎖等の影響による販売量の減少から業績は悪化しました。タイの子会社であるPCM PROCESSING (THAILAND) LTD. (PPT社)は、高付加価値製品の販売が堅調に推移したことに加え、販売価格改善も進捗したことから増収・増益となりました。

<建材業務>

建材業務では、エクステリア商品については物置、ガレージ、大型倉庫などの売上が堅調に推移したこと、また外装建材商品についてはヨドルーフの販売価格改善などの要因からいずれも増収となりました。工事では前期に大型物件の売上高が多かった要因などから減収となりました。

②ロール事業

売上高は13億23百万円、営業損失は2億10百万円であります。

鉄鋼向けの輸出販売量が増加したことから増収となりましたが、コスト増などにより営業損失となりました。

③グレーチング事業

売上高は16億80百万円、営業利益は27百万円であります。

売上はほぼ前年並みに推移しましたが、コスト増などにより損益については減益となりました。

④不動産事業

売上高は6億17百万円、営業利益は4億6百万円であります。

売上はほぼ前年並みに推移しましたが、賃貸ビルのテナント減や減価償却負担増などにより減益となりました。

⑤その他事業

売上高は8億61百万円、営業利益は1億98百万円であります。

物資販売事業、倉庫運送事業などの売上が増加し増収となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末より99億89百万円増加し1,545億12百万円となりました。主な要因としては、受取手形、売掛金及び契約資産の増加(55億31百万円)、原材料及び貯蔵品の増加(56億6百万円)等となっております。

固定資産は前連結会計年度末より28億2百万円減少し、973億44百万円となりました。主な要因としては、有形固定資産の増加(15億61百万円)、投資有価証券の減少(46億94百万円)等となっております。

以上の結果、連結総資産は2,518億57百万円となり、前連結会計年度末と比べ71億86百万円増加しました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末より25億93百万円増加し401億51百万円となりました。主な要因としては、支払手形及び買掛金の増加(9億26百万円)、その他に含まれている未払費用の増加(17億75百万円)等となっております。

固定負債は前連結会計年度末より16億10百万円減少し、135億64百万円となりました。主な要因としては、その他に含まれる繰延税金負債の減少(14億32百万円)等となっております。

この結果、連結負債合計は537億16百万円となり、前連結会計年度末より9億82百万円増加しました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末より62億3百万円増加し1,981億41百万円となりました。主な要因としては、利益剰余金の増加(40億10百万円)、為替換算調整勘定の増加(33億11百万円)等となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

世界経済は、ロシア・ウクライナ情勢の長期化によるサプライチェーンの混乱と世界的な資源・エネルギー価格上昇、欧米の金融引締めに伴う景気後退懸念や中国経済の成長鈍化などの要因から不透明な状況が続くものと想定されます。

鉄鋼市場においては、海外市況の停滞に加え日本国内市況も軟化しつつあり、当面は需給バランスも含め不安定な状況が続くものと予想されます。

当社グループにとっても、各地域の需要およびコスト環境は予断を許さない不安定な動きが続くものと考えられ、厳しい事業環境が継続するものと予想されます。

このような不透明な事業環境の中、当社グループとしましては、変化の激しい市況に応じた機動的な営業・生産活動に努めるとともに、「中期経営計画2022」の最終事業年度としてこれまで進めてきた新しい市場の開拓や高付加価値商品の拡販をさらに推し進め、収益力強化を図ってまいります。

なお、通期の業績予想につきましては、当社グループの事業環境が、日本国内・海外ともに不透明感が高まっており、現時点で合理的に算定することが困難となっております。算定が可能となりました時点で速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	31,872	32,050
受取手形、売掛金及び契約資産	53,671	59,203
電子記録債権	3,412	4,848
有価証券	2,120	2,609
商品及び製品	22,027	23,034
仕掛品	6,801	6,448
原材料及び貯蔵品	17,499	23,105
その他	7,229	3,322
貸倒引当金	△110	△111
流動資産合計	144,523	154,512
固定資産		
有形固定資産	56,459	58,020
無形固定資産	1,966	2,051
投資その他の資産		
投資有価証券	40,678	35,983
退職給付に係る資産	441	463
その他	601	825
投資その他の資産合計	41,721	37,272
固定資産合計	100,147	97,344
資産合計	244,671	251,857
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,676	21,602
電子記録債務	2,329	2,675
短期借入金	1,320	1,424
未払法人税等	3,590	3,590
賞与引当金	1,658	1,564
製品補償引当金	671	882
その他	7,309	8,412
流動負債合計	37,557	40,151
固定負債		
役員退職慰労引当金	39	26
退職給付に係る負債	6,285	6,152
その他	8,851	7,386
固定負債合計	15,175	13,564
負債合計	52,733	53,716
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,220	23,220
資本剰余金	18,272	18,270
利益剰余金	118,475	122,485
自己株式	△11,992	△11,918
株主資本合計	147,977	152,058
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,174	13,332
繰延ヘッジ損益	△0	—
土地再評価差額金	1,609	1,526
為替換算調整勘定	4,433	7,745
退職給付に係る調整累計額	101	109
その他の包括利益累計額合計	22,319	22,713
新株予約権	187	163
非支配株主持分	21,454	23,205
純資産合計	191,937	198,141
負債純資産合計	244,671	251,857

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	93,873	118,525
売上原価	78,904	99,662
売上総利益	14,968	18,863
販売費及び一般管理費	9,309	10,628
営業利益	5,658	8,235
営業外収益		
受取利息	139	181
受取配当金	461	730
為替差益	19	431
投資有価証券売却益	275	1,245
持分法による投資利益	219	113
その他	509	181
営業外収益合計	1,625	2,884
営業外費用		
支払利息	32	54
海外外向費用	85	78
その他	30	25
営業外費用合計	147	159
経常利益	7,136	10,960
特別利益		
固定資産売却益	19	—
その他	—	0
特別利益合計	19	0
特別損失		
固定資産除売却損	81	115
投資有価証券評価損	1	—
減損損失	1	598
特別損失合計	84	714
税金等調整前四半期純利益	7,071	10,246
法人税、住民税及び事業税	1,761	3,349
法人税等調整額	△21	△437
法人税等合計	1,740	2,911
四半期純利益	5,331	7,334
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,220	1,476
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,110	5,858

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	5,331	7,334
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,729	△2,851
繰延ヘッジ損益	△0	0
為替換算調整勘定	2,978	5,518
退職給付に係る調整額	34	7
持分法適用会社に対する持分相当額	18	△16
その他の包括利益合計	1,302	2,659
四半期包括利益	6,633	9,993
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,290	6,336
非支配株主に係る四半期包括利益	2,343	3,657

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期貸借対照表に関する注記)

偶発債務

当社が2007年から2016年に製造した建築外装用カラー鋼板の一部で、使用環境・条件等によっては期待される耐久年数より早く美観および耐久性上の不具合が発生する可能性があることが確認されており、当社は販売先への説明を行うとともに、その補修費用等を負担しております。

当該補修費用等については、既に不具合が発生しているものの補修が終わっていない製品に係るものを含め期間費用として計上しておりますが、将来の不具合発生については合理的に見積もることが極めて困難であることから、費用計上しておりません。

将来の不具合発生の状況によっては、相応の補修費用等が発生する可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	鋼板関連 事業	ロール 事業	グレーチン グ事業	不動産 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	89,809	1,168	1,660	625	93,264	608	93,873	—	93,873
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	210	210	1,300	1,510	△1,510	—
計	89,809	1,168	1,660	835	93,474	1,909	95,384	△1,510	93,873
セグメント利益	5,530	40	52	419	6,042	195	6,237	△578	5,658

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、運輸・倉庫業、ゴルフ場、機械プラント、売電(太陽光発電)等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、配賦不能費用△575百万円、セグメント間取引消去△3百万円を含んでおります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	鋼板関連 事業	ロール 事業	グレーチン グ事業	不動産 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	114,042	1,323	1,680	617	117,664	861	118,525	—	118,525
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	213	213	1,446	1,660	△1,660	—
計	114,042	1,323	1,680	831	117,878	2,308	120,186	△1,660	118,525
セグメント利益又は 損失(△)	8,525	△210	27	406	8,748	198	8,946	△711	8,235

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、運輸・倉庫業、ゴルフ場、機械プラント、売電(太陽光発電)等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額には、配賦不能費用△709百万円、セグメント間取引消去△1百万円を含んでおります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

その他(ゴルフ場)において、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の金額は、当第2四半期連結累計期間において598百万円であります。